

# 令和2年度和歌山県文化功労賞

## 故 尾崎 齋晃(本名 尾崎 好昭)

出身地 和歌山県和歌山市

生 年 昭和10年

### ◎ 業績及び経歴

昭和10年和歌山市に生まれる。昭和30年和歌山市役所へ奉職。和歌山市職員として生涯学習事業に尽力し、様々な社会教育の講座を開く中で、版画家であり教師でもある長谷川富三郎氏と出会う。この出会いを一つのきっかけに、版画家としての活動を始める。

当初、和歌山での木版画講座は年賀状づくりが中心だったが、次第に大きな作品に挑戦するようになり、昭和53年に講座の参加者を中心に和歌山「板画の会」を創設。役員として会員の技術向上に務めると共に、自らの技術や美的感覚を着実に磨き上げていった。

その活躍は、一般社団法人日本板画院主催の第28回板院展への初出品初入選に始まり、第31回板院展で新人賞・ニュートン賞、第60回板院展で華厳賞、第69回板院展で東京都知事賞を受賞するなど永年にわたり、また、海外の展覧会にも積極的に出品し、多数の受賞歴を誇る。

すべての作品が白と黒だけで構成されるその作風には、白と黒だけで色を感じさせるという信念が込められている。題材は、懐かしい街並みや建物が多く、京都府美山町に残るようなかやぶき屋根の伝統的な風景のほか、和歌山市雑賀崎を描いた「雑賀崎風景」、「漁村風景」、御坊市塩屋町を描いた「浜辺」、かつらぎ町を描いた「祠のある家」など、故郷和歌山を取り上げたものも多数存在する。白と黒だけの世界でありながら、その作品に描かれた風景や建物からはあたたかみが溢れ、見る者の心に、目に映る色彩以上の、色鮮やかな故郷への思いを呼び覚ます。

失われつつある日本の懐かしい風景を、白黒の版画を通して人々の心に留めおくその表現力は、実に偉大であり、永年にわたり多くの作品を生み出したその功績は誠に多大なものであった。

令和2年2月15日逝去

### ◆主な表彰歴等

- |       |   |
|-------|---|
| 昭和56年 | 第31回板院展新人賞・ニュートン賞   |
| 平成22年 | 第60回板院展華厳賞<br>「アルテ・ジャポネーゼ・ポスト・モデルナ」芸術大賞(イタリア)<br>「日本ポルトガル修好150周年記念美術展」ポルト市長賞<br>工芸部門準大賞 |
| 平成23年 | インターナショナル・アーティスト・グランプリ<br>「2011年度美術史上に残る世界的名作遺産受賞作家」認定                                  |
| 平成24年 | 日本美術評論家大賞   |
| 平成26年 | エトワール芸術大賞(フランス)   |
| 平成27年 | 「暁-Akatsuki～日本・トルコ修好125周年記念展～」<br>トルコ芸術遺産大賞   |
| 平成29年 | 和歌山市文化賞   |
| 令和元年  | 第69回板院展東京都知事賞   |